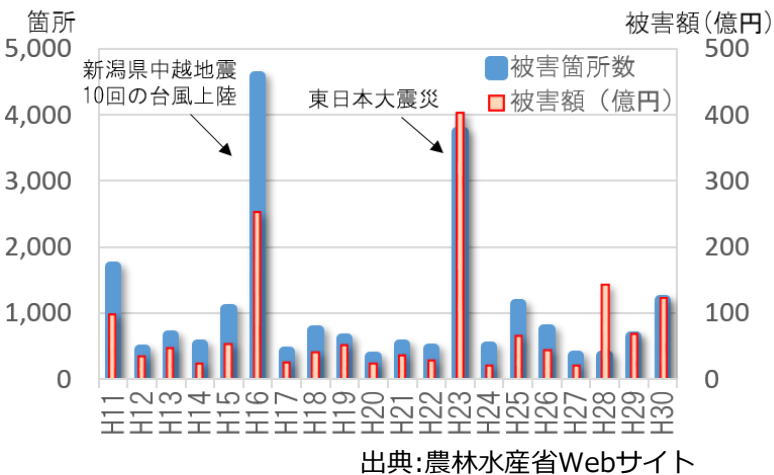


遠隔地からため池を監視 事前予測で、ため池をコントロール

背景・現状

近年集中豪雨が頻発し、ため池が決壊する事例が多発しています。豪雨時や災害時のため池の状況（水位の上昇など）を把握し情報提供することで、事前放流や早期避難、人的被害を防止する等へつなげる対策として活用されています。



豪雨時のため池決壊

システムの特長

- ・水位と雨量のデータを定期的に観測し、農水省「ため池防災支援システム」と「データ・画像収録ソフト」へ送信可能
- ・水位、雨量、画像データを最短10分間隔で送信が可能
- ・ため池観測に特化したことにより低価格で提供可能
- ・カメラを設置すると静止画像の取り込みが可能



システムの構成

ため池設置機器+通信装置



対象ため池に
水位計・雨量計
・通信機を設置

太陽電池パネル



雨量
転倒ます



通信機能付き
水位・電気
1chデータロガー

水位センサ

ため池
水位情報

インターネット



貯水位予測→事前放流
→決壊の回避

ため池の貯水位を予測し、事前放流することによって決壊・崩壊を回避

予測降雨情報



ため池
水位情報

ため池防災支援システムと連携



システムの利用例

農林水産省が選定した「防災重点ため池」などに設置されています。

